

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：平野 方子

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	看護教育、動作解析、看護業務
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程 修士

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 術前看護演習	2017年～現在	本学看護学部演習科目「成人看護学演習Ⅱ」において2コマの演習を実施した。主な内容は、①術前看護の概要、②呼吸法、③呼吸訓練に関する実技としたが、学生の主体性と学習意欲を促進させるための工夫を行った。具体的には、学生が回答しやすい事前課題を与えた。またペーパーペイシエントとクリティカルパスを用いてストーリー性を持たせた。さらに実技と実技の合間にミニ講義をはさみ、なぜ行うのかという根拠を解剖学的知識に基づき説明した。加えて学生らが「実際の患者にどう説明するか」を考えさせ、解説を加えた。授業中、居眠りをする学生はおらず、「手技ばかりで説明がおろそかになった」や「わかりやすい説明をするのは難しい」という感想があった。したがって、学生の学習意欲を促進し、知識と技術を獲得することへの貢献になったと考える。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. ティーチング・アシスタント	2012年4月～2014年3月	大阪大学医学部保健学科で基礎看護学分野のティーチング・アシスタントを行った。主に授業の準備、学生に対する技術指導の補佐、実習指導補佐を担当した。
4 その他		
1. 成人 I B	2016年10月	本学成人 I B 授業において、グループワークのための素案と資料（事例設定、解答例、ループリック、発表ルール、当日の運営方法、学生のグループ割）を作成した。主担当教員指揮のもと分野内教員とも検討を重ねた。学生の感想は「患者の状況を段階的に話し合い、援助方法を出すことができた」、「まとめるのが難しい」等であった。学生の学びの支援につながったと考える。
2. 武庫川女子大学附属高校2年生のスーパーサイエンスコース 科学演習実験Ⅱ	2016年～現在(1回/年)	武庫川大学附属高校の2年生に対する体験講義・演習（「寝心地を目でみてみよう！」）の補佐をした。計画の段階では、学生が興味と関心をもって授業に参加できる内容を検討した。また、授業が円滑に進むよう授業の進行（展開）について素案を作成した。実施の段階では、主担当教員の進行に従って、学生に対する部分的な技術指導を行った。
3. 初期演習	2015年～2016年	本学初期演習において学生の学習意欲を高めるために「看護師として働いた経験」を写真を交えて口演した。主な内容は、病院で出会った忘れられない患者のケア、課題、ケアを通して自分自身の人生を再考したことである。学生の感想は「自分自身の成長につながる仕事なのだった」と思った等、肯定的なものが多かった。将来の仕事イメージさせ、学習を動機付ける一助となったと考える。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師	2013年2月	
2. 看護師	2000年5月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 市立豊中病院 看護師	2014年4月～2015年3月	
2. 岡山市立市民病院 看護師	2010年5月～2012年3月	
3. 財団法人倉敷中央病院 看護師	2000年4月～2010年3月	
4 その他		

研究業績等に関する事項

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. アンブルカット動作の解析による看護技術教育における指導ポイントの検討	単	2014年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	「看護技術教育における動作解析」の一例として、指の受傷が多いアンブルカット動作を3次元動作解析システムを用いて分析した。上肢6自由度の動きを出すための計算式を考案し、経験者3名と未経験者1名の利き手の動きを比較した。経験者の共通点及び、経験者と未経験者の差異点からアンブルカットの構成要素が明らかになった、また、指を受傷する要因となる動きが示唆された。
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Early Detection of Stage I Pressure Ulcers Identifying Non-Blanchable Erythema Using Electric Impedance	共	2017年8月	Sigma Theta Tau International's 28th International Nursing Research Congress	Masako Miyajima, Aki Ibe, Nanae Ikeda, Masako Hirano, Kaori Fujimoto, Tomoko Tamaki, 国際会議 (proceedingsあり)
2. Comparison of the caring behavior of nurses depending on clinical experience : what do nurses think when caring for patients?	共	2017年3月	The 8th International Multi-Conference on Complexity, Informatics and Cybernetics: ICMCIC 2017	Atsue ISHII, Noriko UEDA, Yoshiaki INOUE, Masako HIRANO, Akane TANIGAWA, Naoko HORII, Rieko SHIODE, Ko JYO, Rie Mitani, Yoko TANIURA, pp.198-200, 国際会議 (proceedingsあり)
3. Current Status and Problems Concerning Fundamental Competencies for Working Persons among First-year Nursing Students in University	共	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars	Masako Hirano, Masako Miyajima, Kaori Fujimoto, Tomoko Tamaki & Nanae Ikeda, 国際会議 (proceedingsあり)
4. 仮想フィールドにおいて看護師が援助する際の視線・行動・動線の新人看護師と熟練看護師の比較—情報の取り込みに着目して—	共	2016年8月	第17回日本医療情報学会看護学術大会論文集	上田 記子, 石井 豊恵, 平野 方子, 井上文彰, 蔭田 奈津子, 中野 瑠子, 徐 紅, 谷浦 葉子, 堀井 菜緒子, 谷川 茜, 塩出 理恵子, pp.141-142, 会議報告/口頭発表
5. アクティブラーニングを意識した授業運営後の看護系大学1年生の社会人基礎力の現状	共	2016年8月	第42回日本看護研究学会—プログラム及び内容要旨—	藤本 かおり, 池田 七衣, 平野 方子, 宮嶋 正子, 39(3), pp. 37, 会議報告/口頭発表
6. How about the Safety and Comfort for Ambulation of Post-thoracotomy Patients ?	共	2015年9月	Japan-the Netherlands Symposium on Soft-Tribology	Atsue ISHII, Noriko UEDA, Masako HIRANO, Kohei TOMITA, Yoshitaka NAKANISHI, Yoshiaki INOUE, Rie NAKAGAWA, Chisato YANAGAWA, Yasuaki MATSUMOTO, Tsuyoshi BABA, Masashi INOUE, pp.117-121, 会議報告/口頭発表
7. 集中治療入室患者の仙骨部・踵部角層水分量におよぼす影響因子の検討	共	2015年8月	日本褥瘡学会	宮嶋正子, 内垣亜希子, 藤本かおり, 池田七衣, 平野方子, 伊部亜希, 阿曾洋子, 17(3), p. 395
8. 開胸術後患者の歩行支援台車使用下歩行の安全性・安楽性の検討	共	2014年10月	第2回看護理工学学会学術集会プログラム・概要集	上田記子, 石井豊恵, 平野方子, 富田耕平, 柳川千里, 中川里恵, 中西義孝, 松本保朗, 山川誠, 馬場剛之, pp. 49, 会議報告/口頭発表
9. アンブルカット動作の解析による看護技術教育における指導ポイントの検討	共	2014年10月	第2回看護理工学学会学術集会プログラム・概要集	平野方子, 石井豊恵, 上田記子, 富田耕平, 中西義孝, 越野八重美, 井上文彰, 松本保朗, 永村和真, 圓井健敏, pp. 49-49, 会議報告/口頭発表
10. 包帯装着時の圧分布の変化	共	2013年9月	日本看護技術学会 第12回学術集会	富田耕平, 石井豊恵, 平野方子, 平田記子, 中西義孝, p. 122, 会議報告/口頭発表
11. Understanding the characteristics of collaborative work in nursing activities: A time and motion study	共	2013年9月	ICServ2013	Noriko Hirata, Atsue Ishii, Kohei Tomita, Masako Hirano, Mitsuko Yokouchi, Yuko Ohno, Sachiko Shimizu, Akiyo Higashimura, and Nobue Uchida, 国際会議 (proceedingsあり)
12. 開胸術後離床支援ツールの開発	共	2013年9月	日本機械学会 九州支部 鹿児島講演会抄録集	中西 義孝, 松本 保朗, 馬場 剛之, 山川 誠, 平田 記子, 平野 方子, 富田 耕平, 石井 豊恵, 会議報告/口頭発表
13. 心臓血管外科術後の低圧持続吸引器使用下での歩行の安全性と安楽性の検討 —低圧持続吸引器設置用歩行支援台車の開発と製作—	共	2013年9月	第10回日本循環器看護学会学術集会	平田記子, 石井豊恵, 中川理恵, 中西義孝, 富田耕平, 平野方子, 山川 誠, 馬場剛之, pp. 89, 会議報告/口頭発表
14. 熟達者のアンブルカット動作の比較	共	2013年9月	生体医工学シンポジウム2013 予稿集	平野方子, 石井豊恵, 平田記子, 富田耕平, 中西義孝, 越野八重美, 松本保朗, 永村和真, 圓井健敏, 会議報告/口頭発表
15. 一般病棟と外来化学療法室の看護業務における協働業務の実態と特徴	共	2013年7月	第14回日本医療情報学会看護学術大会抄録集	平田記子, 石井豊恵, 富田耕平, 平野方子, 横内光子, 大野ゆう子, 清水佐知子, 東村昌代, 内田宣江, pp. 59-60, 会議報告/口頭発表
16. Measurement of Force Exerted b	共	2013年7月	The 35th Annual Inter	Noriko HIRATA, Atsue ISHII, Kohei TOMITA, Masako HI

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
17. Analysis of upper limb trajectories in ampoule opening	共	2013年7月	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)	RANO, Yoshitaka NAKANISHI, Yasuaki MATSUMOTO, Mako to YAMAKAWA, Tsuyoshi Baba, pp.114, 国際会議 (proceedingsあり)
18. The Effect of the Bandage with Graduations to Keep the Tension	共	2013年7月	The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC' 13)	Masako Hirano, Atsue Ishii, Kohei Tomita, Noriko Hirata, Yoshitaka Nakanishi, Yasuaki Matsumoto, Kazuma Nagamura, Yaemi Koshino, pp.114, 国際会議 (proceedingsあり)
19. モーションキャプチャーシステムを用いたアンプルカットの動作分析の試み		2012年9月	第20回看護人間工学部会研究発表会	Kohei Tomita, Atsue Ishii, Masako Hirano, Noriko Hirata, Yoshitaka Nakanishi, Yasuaki Matsumoto, Daisuke Tsujinaka, Koichi Okamoto, pp.114, 国際会議 (proceedingsあり)
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. アンプルカット動作における安全性と合理性の検討	単	2016年～現在	科学研究費補助金（研究活動スタート支援）	「アンプルカット動作における安全性と合理性を検証し、未経験者の指導ポイントを明らかにすること」を目的として、約60名の動作データを収集し、左右7自由度の動き、筋電活動、重心等を分析している。
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2017年6月	第19回日本母性看護学会学術集会 実行協力員			
2. 2016年9月	第15回日本アディクション看護学会学術集会 実行協力員			